

## 観光パンフレットにみる大分県の大規模景観の特徴

keyword : 1 . 大規模景観 2 . 篩い分け分類  
3 . 地形シミュレーション

正会員 西原由里子<sup>\*4</sup> 佐藤誠治<sup>\*1</sup> 有馬隆文<sup>\*2</sup>  
同 小林祐司<sup>\*3</sup> 姫野由香<sup>\*3</sup> 矢作裕之<sup>\*4</sup>

全域カバーしている12冊を研究対象とした。

### 1. 背景と目的

大分の地質構造は複雑で、変化に富んだ地形を生み出している。その表情豊かな地形が織り成す大規模景観は、その都市や地域の都市文脈であり、第三者に印象付けたり、そのイメージを伝えるのに重要である。このことが深く関係するものに「観光」がある。

本研究では、実際に大規模景観がどう捉えられているかを知るため、大分県の「大規模景観」に注目する。建造物や動物などの「ミクロ」的な特徴や景観ではなく、連続的にそれらを包む周辺一帯の地形の「マクロ」的な特徴を把握することで、今後、観光地にプラスになるような景観を上手く取り込む時に役立つものと考えられる。

観光客にとって限られた時間の中で訪れた都市や地域の何処を見て回るかは悩めるところであり、観光パンフレットはその情報源として非常に重要であること、また迎える側にとってこのような情報源である観光パンフレットには選び抜いた画像を用いるであろうこと等を考慮し、このような特性をもつ観光パンフレットの画像を分析することは有意であると考え、研究サンプルを観光パンフレットより収集することとした。

これより、景観の特徴を把握するため、観光パンフレットに掲載されている景観画像を考察していく。膨大に存在する景観の中から「選ばれた」景観画像には、景観を上手く取り入れるヒントがあるのではないかと考える。そのヒントを理解するには、「物理的」に特徴の把握をする必要がある。都市や地域のイメージを伝えるのに重要な大規模景観が、どう分けられるか、どんな所が選ばれているのか、生かされているのか、科学的に検証する。

### 2. 研究のフロー

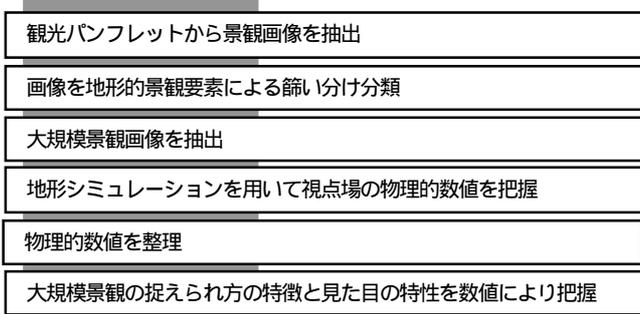


図1. フローチャート

### 3. 観光パンフレットの選定

大分県が発行している観光パンフレットの中から制作目的を考慮し、大分県全域の景観特徴が把握できるような県内を

### 4. 観光パンフレットから景観画像の抽出と分類

観光パンフレットに掲載されている画像の地形的景観特性を把握するため、篩い分けを行った。手順は以下に示す。観光パンフレットに掲載されている全景観画像を抽出。

↓ (抽出した画像を 総景観画像 : 444 枚 とする。)

段階 山・海といった地形的景観要素が、他の景観要素と比較し、重要かどうかにかかわらず出現している画像のみを抽出する。(抽出した画像を Group A : 212 枚 とする。)

段階 Group A から山・海といった地形的景観要素が、その他の景観要素と比較して、同等に扱われている画像のみを抽出する。(抽出した画像を Group B : 135 枚 とする。)

段階 Group B から山・海といった地形的景観要素のみが主景として出現している画像を抽出する。

(抽出した画像を Group C : 42 枚 とする。)

以後、地形的景観を大規模景観と表記する。

以上の各グループは包含関係にある。(図2)

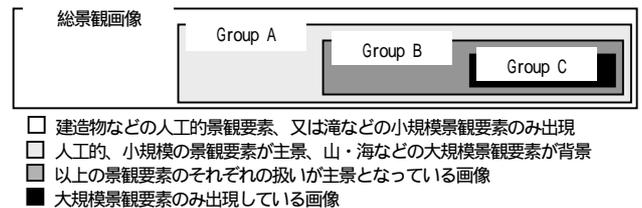


図2. 分類の概要図

以上の篩いにかけた結果を6地域(図3参照)に分け、表1を作成した。

地域グループ	中津・宇佐	国東	別府・大分	日田・玖珠	奥豊後	日豊海岸	サンプル数							
総サンプル	66	100%	75	100%	96	100%	70	100%	74	100%	63	100%	444	100%
Group A	33	50%	27	36%	39	41%	39	56%	30	41%	44	70%	212	48%
Group B	16	24%	11	15%	29	30%	25	36%	19	26%	35	56%	135	30%
Group C	11	17%	1	1%	6	6%	9	13%	5	7%	10	16%	42	9%

(%は、地域ごとにおける割合)

表1. 地域別地形的景観要素分類表

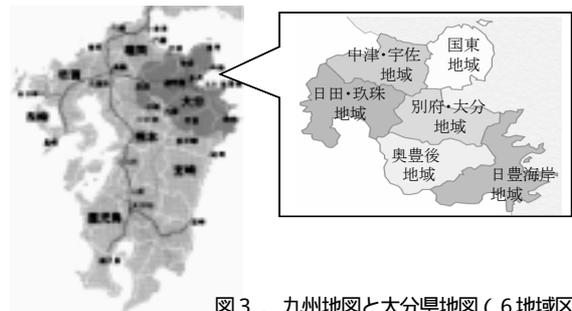


図3. 九州地図と大分県地図(6地域区分図)

表1より、各地域が観光パンフレットによって与える、又は、観光パンフレットを使ってアピールしている観光景観の印象に注目したとき、各地域が持つそのイメージについて考察する。

**a)中津・宇佐地域** Group A が半数以上の割合で抽出され、Group C が他地域と比べて割合が高いことから、大分県内の他地域より多くの大規模景観が印象を与え、存在すると考えられる。

**b)国東地域** 逆に Group A の割合が3割程度で最も低く、Group C も1割に満たないことから、景観画像のほとんどが山・海が全く写りこまない、木々などに覆われた閉鎖的な空間を持つ地域というイメージがある。

**c)別府・大分地域** 大分市周辺は県の中心部であるために建築物の景観画像が多く、別府市周辺は温泉が多く存在するために温泉や宿が写っている景観画像がほとんどである。よって、段階で6割が省かれており、地形的な観光景観を露出している地域ではない、と窺える。それでも Group A は4割ほど存在しており、Group A と Group B を比べると、ほぼ段階を通過していることから、ある景観要素と大規模景観が組み合わさった、自然と共存する地域というイメージを与えている。

**d)日田・玖珠地域** 他地域に比べ、各グループの割合がこれと言って突出していないことから、観光資源が単体でも存在し、大規模景観との組み合わせも見られ、大規模景観のみも望める、色々な空間を兼ね備えた地域というイメージを与えている。

**e)奥豊後地域** 別府・大分地域と類似した結果が出ており、同様のイメージを与えている。

**f)日豊海岸地域** 景観画像が段階を6割、段階を5割通過しており、他地域と比べて Group C の割合が高いことから、大分県内の他地域より多くの大規模景観を持つ地域というイメージを与えている。

次に、グループ毎に考察する。Group A では各地域の特徴を

把握するために景観要素出現頻度の調査を行う。Group B では建造物などの人工的景観要素、滝などの小規模景観要素と大規模景観要素の組み合わせについて、各景観要素の扱われ方を把握するための調査を行う。Group C では地形シミュレーションを用い、数値によって大規模景観要素の特徴の把握を行う。但し、紙面の都合上、この中から Group C の考察について表記する。

### 5. 大規模景観画像の分析

Group C で抽出された大規模景観画像を見て、地図を用い、実際に現地に行き、視点場・視対象の探索を行った。この時、42枚の景観画像は視点場が重複しているものがあり、視点場は21ヶ所存在した。調査結果から、視点場の緯度経度を割り出し、国土地理院の数値地図50mメッシュ(標高)を用い、地形シミュレーションによって視点場の地形的特徴を視覚指標と数値指標から把握した。その結果を地域毎にまとめ、各地域の景観の特徴を示した。(表2.各視点場の数値結果)

表2より、数値からみてとれる特徴を地域別に列挙していく。中津宇佐地域は、視点標高・周囲の標高の数値が全てマイナスであることから見上げる景観が多く存在し、山頂数・可視の山頂数が少ないことからスカイラインが単純で、距離帯別可視領域割合の遠景の数値が0なので遠景が全く望めない地域、ということが分かる。別府・大分地域は他地域より構成要素割合の平地の数値が平均して高いことから平地が広く存在する。以上のように見ていくと、逆に、日田・玖珠、日豊海岸地域は平地がほぼ存在しない。奥豊後地域は見下ろす景観が多く、スカイラインが複雑であり、近景が多く存在する。日豊海岸地域は海が際立って存在する。

### 6. 総括

大規模景観の写り方による類型は、予想通り各地域の特性が出ている。そして、大規模景観のみを扱った景観画像は物理的指標によって把握される。

表2. 各視点場の数値結果

指標 地域名	視点標高・ 周囲の標高	構成要素割合					山頂数	可視の 山頂数	水平視野領域 のいびつ度	可視領域 割合	距離帯別可視領域割合		
		海	平地	緩勾配	急勾配	超急勾配					近景	中景	遠景
中津・宇佐地域	-170	0	5	24	40	31	12090	36	12	0.1	63	3	0
	-92	31	5	15	26	22	12110	36	10	0.2	85	3	0
	-164	0	8	23	36	33	12099	37	10	0.1	85	3	0
国東地域	-91	51	13	13	14	9	12871	711	24	7.0	70	43	5
	120	0	5	26	41	28	19092	425	30	108.0	93	9	1
	-248	0	12	29	37	22	18498	58	10	0.7	88	19	0
別府・大分地域	-251	0	11	30	39	20	18448	83	12	0.9	100	26	0
	307	73	12	9	4	2	16610	756	0	16.2	77	25	15
	1180	37	16	21	19	7	17106	4751	9	29.1	28	11	30
	-301	0	2	23	46	29	17373	37	7	0.3	84	5	0
日田・玖珠地域	378	0	4	35	43	18	12235	1352	6	2.8	39	4	3
	-188	0	1	13	39	47	15816	227	14	0.5	62	1	0
	75	0	1	26	48	25	12727	45	1	0.1	83	2	0
奥豊後地域	112	0	9	37	34	20	17977	3099	26	6.1	90	15	5
	120	0	5	26	41	28	19092	425	30	1.8	94	9	2
	-243	0	2	30	35	33	18096	864	17	2.0	58	12	2
	-2	0	4	34	39	22	19000	136	0	0.7	91	10	0
日豊海岸地域	147	0	17	35	30	18	18793	172	13	1.2	83	18	1
	0	96	0	2	2	1	6922	269	23	18.0	100	36	18
	4	97	1	0	1	1	9651	150	22	10.6	99	24	10
	253	98	0	0	1	1	3948	667	28	70.5	41	63	71

\*1 大分大学工学部建設工学科 教授 工・博  
\*2 九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門 助教授 工・博  
\*3 大分大学工学部建設工学科 助手 工・修  
\*4 大分大学大学院工学研究科建設工学専攻博士前期課程

Prof., Dept. of Architectural Eng., Oita Univ., Dr. Eng.  
Assoc. Prof., Architectural Eng., Kyusyu Univ., Dr. Eng.  
Research Assoc., Dept. of Architectural Eng., M. Eng.  
Graduate School of Eng., Oita Univ.